

年	月 日	攘夷事件関係
1854年	2月13日	ペリー再来航。 日米和親条約調印
1858年	7月29日 8月13日	日米修好通商条約調印 井伊直弼による安政の大獄が始まる。
1859年	8月25日 10月27日 11月 5日	ロシア士官1人、水夫2人、暮れ六つ時、横浜波止場で襲撃され2人死亡する。 吉田松陰処刑される。 小村幸八、フランス領事館の下僕の清国人を惨殺する。小村は慶応元年8月14日に処刑（磔刑）された。
1860年	1月29日 2月26日 3月24日	イギリス公使館通詞の伝吉、公使館門前で暗殺される。 オランダ船長デ・ヴォスとデッケル、横浜で暗殺される。幕府は1000ドルの賠償金をオランダに支払う。 【桜田門外の変】 通商条約の締結、安政の大獄などの弾圧政策を憎んだ水戸浪士ら18名は、江戸城桜田門外で大老井伊直弼を暗殺する。
1861年	1月15日 7月 5日	アメリカ公使館通訳ヒュースケン、赤羽接遇所から善福寺に帰る途中の中ノ橋付近で薩摩藩士清河八郎一派の志士（伊牟田尚平・樋渡八兵衛ら）に襲撃され、翌日死亡する。幕府は母ジョアンネに1万ドルの弔慰金を支払う。 水戸浪士有賀半弥、武州浪人吉田宇衛門ら同志14名が高輪の東禅寺にあったイギリス公使館を襲撃。オリファントとモリソンが重傷を負う。
1862年	2月13日 6月26日 9月14日	【坂下門外の変】 井伊直弼の開国路線の継承や公武合体路線を推進する老中安藤信正が、坂下門外で尊攘派の水戸浪士6人に襲撃され重傷を負う。 イギリス公使館の東禅寺を警備中の松本藩士伊藤軍兵衛が単身槍をもってイギリス伍長1人を殺害、歩哨1人を傷つけ、藩邸に戻って切腹する。幕府は翌年、生麦事件の賠償金とともに1万ポンドを支払う。 【生麦事件】 武蔵国橋樹郡生麦村で島津久光の行列を乱したと、川崎大師に行く途中のイギリス人4人が藩士に斬りつけられ、リチャードソン死亡、クラークとマーシャルが重傷、1人（婦人）無傷で逃げる。
1863年	1月31日 6月25日 7月19日 8月15日 10月14日	品川御殿山に建設中のイギリス公使館が高杉晋作らにより焼き討ちされる。 【下関砲撃事件】長州藩、下関で外国商戦を砲撃する。 フランス、下関に報復攻撃、上陸して砲台を破壊する。 【薩英戦争】 フランス陸軍士官アンリ・カミュ、3人で乗馬通行中、井土ヶ谷村字下之前で浪士3人に殺害される。幕府は遺族に35000ドルを支払う。
1864年	9月 5日 11月21日	【馬関戦争】英仏蘭米連合軍、下関を攻撃する。 【鎌倉事件】 イギリス軍人ボールドウィン少佐とバード中尉、鎌倉鶴ヶ岡八幡大門前で元谷田部落士清水清次らに殺害される。幕府は浦池源八と稲葉丑次郎を捕縛し、横浜戸部の刑場において斬首した。清水清次も捕縛され、イギリス守備隊の見る中で、斬首され、その生首が晒された。
1868年	2月 4日 3月 8日	【神戸事件】 神戸校外において備前藩兵が隊列を横切ったフランス人水兵に発砲し数名を負傷させたうえ、居留予定地を検分中の欧米諸国公使らに水平射撃を加えた。外国軍が神戸中心部を占拠するに至るが、問題を起こした隊の責任者であった滝善三郎が欧米外国人の前で切腹する事で一応の解決を見た。 【堺事件】 フランス海軍の士官以下数十名の水兵が堺に上陸、市内を徘徊した。土佐藩軍艦府は、警備の藩兵に取締を命じ、帰艦を諭させたが、水兵側は土佐の隊旗を倒伏、逃亡しようとした。土佐藩側が発砲し、フランス人11人を殺傷または溺死させた。大阪裁判所の宣告により堺の妙国寺で土佐藩士20人の刑が執行された。切腹の場で藩士達は自らの腸を掴み出し、居並ぶフランス水兵に次々と投げつけるという行爲を行った。